

武蔵野市学習者用コンピュータ通信

第25号

発行

武蔵野市教育委員会指導課

令和5年2月

市ホームページにも、これまでのバックナンバーを含め掲載しております。

「学習者用コンピュータ通信」を検索していただくか、QRコードでアクセスしてください。



学習者用コンピュータ通信

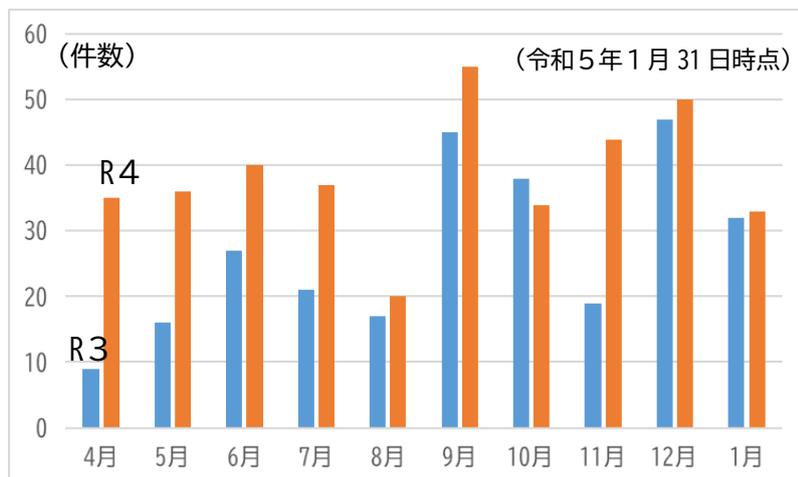
検索



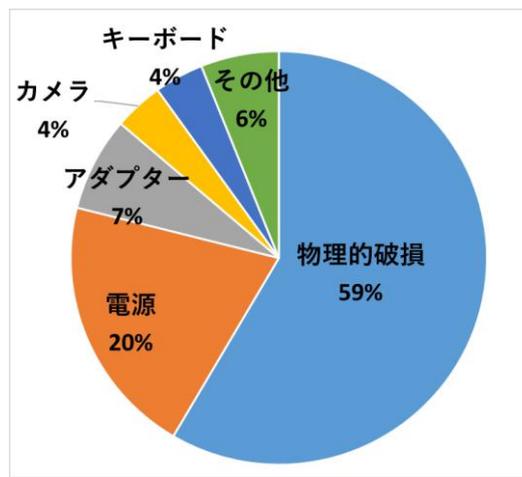
子どもたちの学習者用コンピュータの取り扱いは大丈夫ですか？

先日開催した武蔵野市学習者用コンピュータ検討委員会で、子どもたちの学習者用コンピュータの取り扱いの様子について話し合いました。一人1台の学習者用コンピュータが配付されて2年近くが経ち、授業だけでなく家庭学習にも活用される等、子どもたちの活用が進んでいます。

しかし、活用が進むと同時に故障の数も増加しています。下のグラフは、令和3年度と令和4年度の修理対応件数を比較したものと、令和4年度の故障内容をそれぞれ示しています。



【令和3年度と令和4年度の修理対応件】



【令和4年度の故障内容】

昨年度と比較すると、年度当初から故障台数が多いことが分かります。毎月30台以上が故障しています。故障内容を見ると、落としたり踏んだりして故障してしまった「物理的破損」が6割を占めています。原因として以下の様な事例が上がりました。

- 床の上に置いてあることに気付かず、踏んで壊してしまった。
- ベッドの端に置いていて、落として画面が割れてしまった。
- 教室移動の際に、手で持っていて落としてしまった。
- カバンに入れたまま、放り投げてしまい壊れてしまった。

学校で使用している際に壊してしまうだけでなく、ご家庭で壊してしまう事例が増えています。持ち運ぶ際はケースやカバンに入れる、床や落ちやすい場所には置かない等、今一度日頃の使い方の見直しをお願いします。

(裏面あり)

学校全体でデジタル・シティズンシップ教育の実践が行われました

市内小学校で、デジタル・シティズンシップ教育の授業が全学年で行われました。6年生の授業の様子をご紹介します。

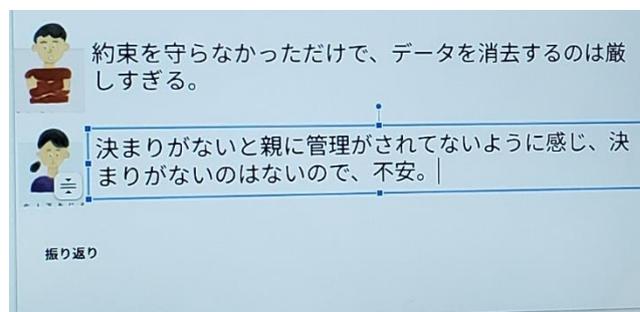
「自分でよく考えて、情報機器とうまく関わっていかうとする態度を育てる」をテーマに、「スマートフォンを持つか持たないか、どう使うか」について考えました。

子どもたちは最初に「小学生がスマートフォンを持つこと」について賛成の立場、反対の立場の異なる立場の保護者の意見を読み、自分の考えをもちます。「失敗して経験しないと、理解できない。」「話に入れないから、友達関係で孤立しそう。」「我が子を危険に合わせたくない思いが強い。」「家族との会話が少なくなりそうだから持たない。」「といった幅広い意見が出ました。自分の思いだけでなく、保護者の思いについて考えつつ自分たちの意見を考えていました。

次に「利用する際に制限をかけるか、かけないか」について、保護者の思いや自分の生活の現状を踏まえて意見を考えます。「制限は緩い方がいいけど、親からしたら制限をかけたいと思う。」「自分は親に反抗するから、機械的に制限をかけてもらった方がいい。」「私はルールがないと、たくさん使ってしまうからルールがあった方がいい。』と客観的に自分の状況を踏まえた意見が多く出ていました。



【学級で話し合っている様子】



【制限があった方がいい児童の考え】

同日に開催された道徳授業地区公開講座では「武蔵野市のデジタル・シティズンシップ教育について」をテーマに、教育委員会の取組や学校での実践事例について、保護者や地域の方々を迎えて講演会を開催しました。100名を超える出席があり、学習者用コンピュータの活用への関心の高さを感じました。

会を終えて「成功事例がまだ無いから、一緒に創り上げていくことが大切。」「親世代のデジタル教育も必要だと感じた。」「禁止させるのではなく、実際にやってみて、どうしたらよいか考えていくことが必要なのだと感じた。」等、多くの意見をいただきました。

今後も、教育委員会や各校からデジタル・シティズンシップ教育や学習者用コンピュータの活用状況等を様々な方法でお伝えしていきます。